

# 様似町「アポイ岳」ジオパーク ～地球の鼓動を感じる自然公園～

アポイ岳は、世界的に有名な「かんらん岩」の山です。ここに希少な高山植物が生育しています。様似町では、アポイ岳の自然の素晴らしさを日本国内や世界の多くの人に知ってもらいたいという願いから、地球や大地の「ジオ」を楽しむ自然公園づくりを始めました。1年前に日本ジオパークに認定され、ひきつづき世界ジオパークネットワークへの加盟をめざしています。札幌からは、日高海岸に沿って日高自動車道～国道235号を車で走り、3時間ちょっとで行くことができます。



北海道大学理学研究院／  
地球惑星システム科学 准教授  
新井田 清信 さん

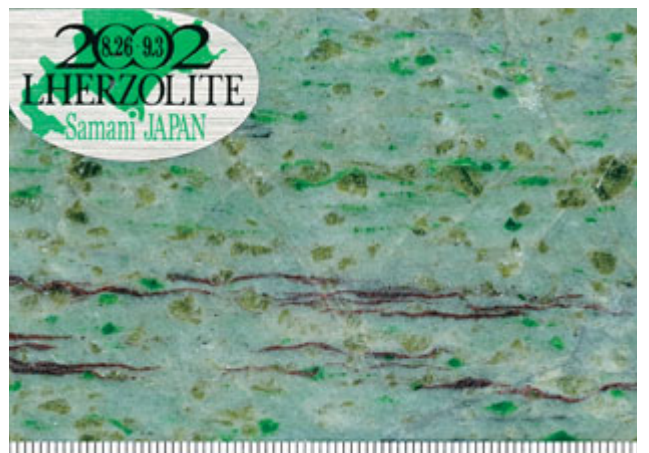


様似海岸。背景はかんらん岩の山並み。右端三角ピークがアポイ岳（810.6m）山頂

## アポイ岳のかんらん岩

アポイ岳のかんらん岩は、もともとは地下およそ60km深部の上部マントルにあった岩石です。地球内部のその深さの上部マントルは、極めて高温でおよそ1,100℃～1,200℃、玄武岩質マグマの故郷になっています。そこでかんらん岩はマグマの源（起源物質）になっていました。それが、日高山脈ができた新生代中新世の後期（約1,300万年前）に、上部マントルから地表まで持ち上げられたと考えられています。

アポイ岳のかんらん岩は、とても新鮮で、鉱物が上部マントルにあったままの形で残っているために学術的にたいへん貴重な岩石です。世界的にも「幌満かん



レルゾライト（代表的なかんらん岩タイプ）。国際レルゾライト会議参加記念の文鎮

らん岩 (Horoman Peridotite)」の名前で良く知られています。そのために、毎年、大勢の研究者や学生たちが訪ねて来ます。2002年には、ここで、かんらん岩の国際会議 (第4回国際レルゾライト会議) が開催されました。100名規模の国際会議で、海外からも53名の参加がありました。その会議場は、様似町公民館です。様似町と町の人たちのご支援があつての国際会議でした。会議のシンボルになったかんらん岩標本は、公民館の玄関前に展示されていますので、いつでも見ることができます。また、公民館の正面には「地域で目指そう世界ジオパークネットワーク加盟!」の大きな看板が掲げられていて、町の気合いが感じられます。



アポイキンバイ。開花は5月。(様似町教育委員会提供)



国際レルゾライト会議のシンボル標本 (かんらん岩)

## アポイ岳の高山植物

アポイ岳の山頂は、標高810.6m。幌尻岳など2,000m級の山々が連なる日高山脈の中では、標高の低い山ですが、ここに80種類以上の希少な高山植物が生育しています。かんらん岩の山の土壌が、極端にマグネシウムや鉄に富み、植物の栄養成分に潤渇しているためです。かんらん岩に含まれているニッケルが植生を阻害しているという説明も有力です。

この高山植物群落は、1952年 (昭和27年) に国の特別天然記念物に指定され、毎年多くの愛好家が登山に



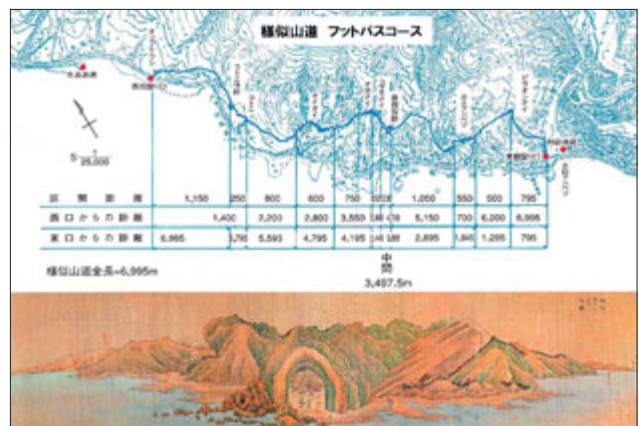
ヒダカソウ (絶滅危惧種)。(様似町教育委員会提供)

訪れます。アポイ岳では、春から秋まで、季節をつうじて色とりどりの花を楽しむことができます。アポイ岳ファンクラブのホームページ\*に詳しい開花情報が載っていますので、ご覧ください。

## アポイ岳の山麓海岸と 住民生活の歴史

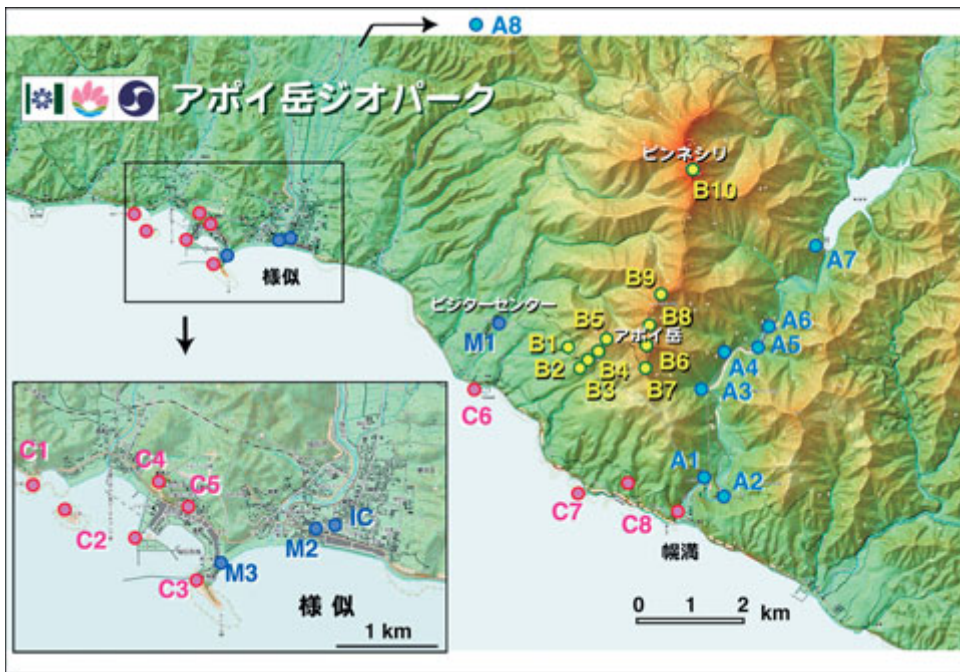
様似町の海岸には、親子岩やエンルム岬、ソビラ岩、ローソク岩などの奇岩が立ち並び、風光明媚な海食崖の地形をつくっています。北海道が「蝦夷が島」だった江戸時代に、幕府はここを東蝦夷地への要路と位置づけましたので、ここには北海道のなかでも早くから拓けた歴史があります。様似町の等じゅ院は、有珠の善光寺や厚岸の国泰寺とともに蝦夷三官寺と呼ばれ、文化3年 (1806年) に建てられました。

日高海岸は、ここから砂浜から急峻な海食崖の絶壁になります。当時は、危険な海岸線を通り抜けることができなかったために、山側に「様似山道」が通っていました。今では、東冬島から幌満まで約7kmのフットパスコースが整備されていますので、ハイキングを楽しめます。



フットパスコース「様似山道」

\*アポイ岳ファンクラブのホームページ <http://apoifan.mt-hidaka.jp/>



アポイ岳ジオパークの解説パンフレット (様似町教育委員会発行)

アポイ岳ジオパークのジオサイト。メインテーマ:青色 (A1~A8) が「かんらん岩」、黄色 (B1~B10) が「高山植物」、ピンク色 (C1~C8) が「海岸の自然と人々の歴史」

## アポイ岳ジオパークの概要

アポイ岳ジオパークは、アポイ岳のかんらん岩と高山植物、自然と人びとの生活の歴史を知ってもらうためにつくられた自然公園です。ここでジオの自然景観を楽しみ、ジオに学び、火山とは一味違った地球変動や地球深部のマグマの故郷を体感してみてください。アポイ岳ジオパークでは、現在、テーマ別に26カ所のジオサイトが設定されています。

テーマA：かんらん岩が語るマグマの故郷と島弧の形成

(略称「かんらん岩」：Geosite A1~A8)

テーマB：かんらん岩がつくる高山植物の希少性と自然環境

(略称「高山植物」：Geosite B1~B10)

テーマC：海岸の奇岩がもたらした東蝦夷地の要衝

(「海岸の自然と人々の歴史」：Geosite C1~C8)

ジオサイトの観察ポイントについては、様似町が発行したジオサイトマップに、それぞれのジオサイトごとに解説されています。ご利用ください。また、公園内には、アポイ山麓ファミリーパークにM1「ビジターセンター」、様似町役場前にM2「かんらん岩広場」、エンルム岬にM3「様似郷土館」、そしてJR様似駅にはインフォメーション「様似観光案内所」があります。お立ちよりください。

## お薦めのジオサイト

まず最初に、アポイ岳ジオパークの自然景観を楽しみたいと思う人は、「エンルム岬」(Geosite C3)の展望台に上がってみてください。エンルム岬は太平洋に突き出た「陸繋島」です。アポイ岳を正面に見ながら、手前の様似市街や海岸地形など様似町の全景を見るこ



アポイ岳の西方尾根「馬の背」(B5)。正面に山頂(B6)



幌満川沿いのジオサイト(A6)

とができます。次に、樹齢400年のカシワの巨木がある「観音山」(C4)がおすすめです。眼下に見下ろす様似漁港から、遠くは襟裳岬方面の海岸地形を楽しめます。アポイ岳から北にピンネシリ、さらに日高山脈の脊梁が連なり、そこには広大なジオの景観があります。

アポイ岳の高山植物を楽しみたい人は、山登りをします。まず、アポイ山麓ファミリーパークのビジターセンター(M1)に立ち寄りましょう。ここがアポイ岳の登山口です。約1時間ほど林間のなだらかな登山道を歩くと、「5合目山小屋」(B3)に到着します。真正面にアポイ岳の山容が現れ、右手に太平洋が広がっています。この先の登山道は急になり、40分ほどで「馬の背お花畑」(B5)の絶景サイトです。晴れた日には、限りなく広い太平洋の大海原と日高山脈南部の脊梁の山々を手にとるように眺望できます。体力があれば、さらに40分ほどで「アポイ岳」(B6)の山頂です。登山道のすぐ脇にはアポイアズマギクやエゾコウゾリナなど高山植物の花々が咲きそろう、登山者を迎えています。

かんらん岩を本格的に見てみたい人には、幌満川沿いのジオサイト(A1~A7)をお勧めします。多くはかんらん岩研究者や学生向けのサイトになっていますが、A4~A6付近は様似8景の1つ「幌満峡」と呼ばれています。四季折々、かんらん岩峡谷の景色を楽しむことができます。

### 様似町役場前の「かんらん岩広場」

国道235号沿いにある様似町役場の前庭に、「アポイの鼓動」というかんらん岩広場があります。噴水の周辺にかんらん岩の大きな研磨標本が展示されて、前庭全体が野外博物館になっています。どの標本もアポイ岳の代表的なかんらん岩ですが、さまざまなタイプのかんらん岩を見ることができます。なかには八角柱状で全面磨きのかかった標本も置かれていて、立体的に観察できます。かんらん岩とともに日高山脈をつくる深成岩(トータル岩・斑れい岩)や地殻最下部の高温高压のもとでできた変成岩(グラニュライト)の標本も置かれています。

広場の正面にあるシンボル標本には、「アポイの鼓動」の簡単な解説が書かれています。かんらん岩を「見る」「触れる」、そして地球の鼓動を「感じる」広場です。お天気の日には、ここでアポイ岳の山並みを見ながら、かんらん岩に含まれているかんらん石や輝石などの鉱物を観察してみましょう。



かんらん岩広場(M2)のシンボル標本

## 世界と日本のジオパーク

世界ジオパークネットワーク(GGN)は、ユネスコの支援によって2004年に設立されました。現在、19カ国、63の公園が加盟しています。日本ジオパークの取り組みはやや遅れてスタートし、昨年5月に、日本ジオパークネットワーク(JGN)が発足しました。現在、日本国内には、日本ジオパーク委員会の認定を受けて日本ジオパークネットワークに登録された公園が11箇所あります。アポイ岳(北海道)・洞爺湖有珠山(北海道)・糸魚川(新潟県)・南アルプス(長野県・静岡県)・山梨県)・ふくい勝山(福井県)・山陰海岸(鳥取県)・兵庫県)・京都府)・隠岐(島根県)・室戸(高知県)・島原半島(長崎県)・阿蘇(熊本県)・大分県)・天草御所浦(熊本県)です。このうち、洞爺湖有珠山・糸魚川・島原半島の3つのジオパークは、昨年、世界ジオパークネットワークに加盟が認められました。

ジオパークは、世界遺産とはちょっと違います。世界遺産は貴重な歴史や自然の遺産を「保護」することが主な目的になっていますが、ジオパークでは、貴重な遺産の「保護」「保全」と同時に、現地での「教育」や「観光」も重視します。つまり、理想的なジオパークは、自然を大切に保護しながら人との共生を目指していますので、将来の地球のための自然公園なのです。そこでは、ジオを楽しみ、ジオに学び、ジオツアーが活発に行われて、地域の活性化がはかられます。そして、ジオに感動した多くの人たちに「ジオをもっと大切にしよう!」と思ってもらえると期待しています。

アポイ岳ジオパークは、日本ジオパークに認定されたばかりの公園の1つですが、さらに世界ジオパークネットワークへの加盟をめざして準備中です。ぜひ、アポイ岳ジオパークで、ジオの自然をお楽しみください。